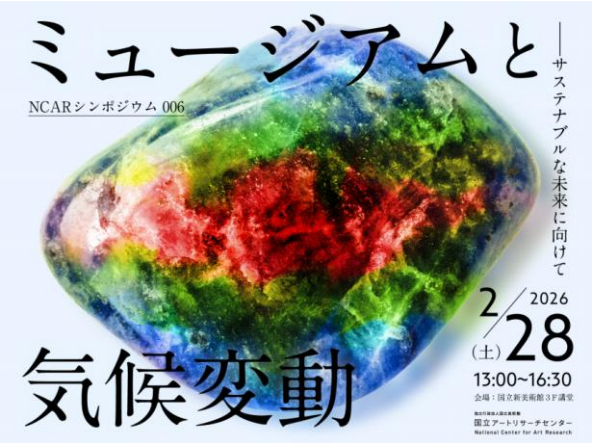
独立行政法人国立美術館
国立アートリサーチセンター
National Center for Art Research

PRESS RELEASE
2026 年 1 月 16 日
独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

ミュージアム(美術館、博物館)のサステナブルな未来を国内外専門家が議論
NCAR シンポジウム 006
「ミュージアムと気候変動 ―サステナブルな未来に向けて」
～2026 年 2 月 28 日(土) 13:00～16:30 国立新美術館 3 階講堂にて開催～

国立アートリサーチセンター（略称：NCAR、センター長：片岡真実）は、2026 年 2 月 28 日（土）に**「NCAR シンポジウム 006『ミュージアムと気候変動 ―サステナブルな未来に向けて』」**を国立新美術館 3 階 講堂にて開催します。本シンポジウムでは、ミュージアム（美術館、博物館）と気候変動に関する国際的な動向や事例研究から学び、社会学、ミュージアム運営、文化財の保存科学、美術作品の輸送・保存などの専門家とともに、さまざまな角度から考え、我が国のミュージアムが気候変動に関して抱える課題や実態について検証しながら、意識喚起と具体的なアクションに向けた議論を深めます。



気候変動問題は現代社会が直面する喫緊の課題のひとつです。これはミュージアム活動とも複雑に関係しており、環境アクティビストによるミュージアムへの抗議行動、気候変動によってミュージアムが被る自然災害、ミュージアム活動自体が排出する温室効果ガスといった課題など多様な視点から考える必要があります。

この課題にミュージアムが責任を持つべきだと考える見方も少なくありません。実際、国際博物館会議（ICOM）では 2023 年に「博物館と持続可能な開発に関する国際委員会（ICOM SUSTAIN）が設置され、国際美術館会議（CIMAM）では 2021 年以降「ミュージアム・プラクティスにおける持続可能性のためのツールキット」を公開し、随時更新しています。こうした国際団体の指針は世界各地のミュージアム活動に反映され始めており、我が国のミュージアムとしても、日本特有の気候や地理的条件に鑑みながら、グローバルなミュージアム・コミュニティとともにサステナブルな未来を見据えたビジョンを描くべき時期を迎えています。

本シンポジウムでは、ミュージアムと気候変動について、議論をスタートさせる機会とします。ミュージアム等の文化施設の運営組織・団体、文化行政関係者、気候変動問題やミュージアム運営に関心をお持ちの方など、どなたでもご参加いただける内容です。

◆国立アートリサーチセンター（NCAR）の事業について　（https://ncar.artmuseums.go.jp/）
NCAR は「アートをつなげる、深める、拡げる」をミッションに、情報収集と国内外への発信、コレクションの活用促進、人的ネットワークの構築、ラーニングの拡充、アーティストの支援など、わが国の美術館活動全体の充実に寄与する活動に引き続き取り組んでいきます。

PRESS RELEASE

2026 年 1 月 16 日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

シンポジウム概要 ※登壇者敬称略

タイトル	NCAR シンポジウム 006 「ミュージアムと気候変動 ―サステナブルな未来に向けて」
開催日時	2026 年 2 月 28 日（土）13：00～16：30
会　　場	国立新美術館 3 階 講堂　（東京都港区六本木 7-22-2）
内　　容（予定）	**■国立アートリサーチセンター長による趣旨説明（約 5 分）** **■基調講演（約 30 分）：** **「ミュージアムの気候変動対応―イギリスの事例と国際的な動向」** 英国ではミュージアムの気候変動対応に関して数多くの先駆的な活動が見られています。なかでもテートは 2019 年に気候危機に関するリリースを発信するなど、先駆的な活動をしてきました。当時のテート・モダン館長フランシス・モリスはそのイニシアティブを取り、現在は Gallery Climate Coalition（GCC）の理事長を務めています。世界のミュージアムが直面する大きな課題について近年の動向と未来へのビジョンをモリス氏に語っていただき、後半の議論に繋げます。 登 壇 者：フランシス・モリス （キュレーター、美術史家、Gallery Climate Coalition（ギャラリー気候連合）理事長） ～休憩（10 分）～ **■テーマセッション（約 80 分）：気候変動対応をめぐる主要な観点について** テーマセッションでは、気候危機の最新情報、国際的なミュージアム団体の対応、保存修復あるいは輸送の最新動向などの観点から事例紹介を行い、本シンポジウムのテーマを多角的に深掘りします。 1.茅野 恒秀（法政大学社会学部教授、信州大学特任教授） 2.半田 昌之（公益財団法人日本博物館協会専務理事、ICOM 日本委員会事務局長） 3.秋山 純子（独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 保存科学研究センター保存環境研究室長） 4.相澤 邦彦（ヤマト運輸株式会社 グローバルロジスティクス部 美術品ロジスティクス課 スペシャルアドヴァイザー/コンサヴァター） 5.塩見 有子（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ［AIT/エイト］ディレクター） 6.ロジャー・マクドナルド（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ［AIT/エイト］共同設立者/グリーンチームリーダー、フェンバーガーハウス館長、多津衛民藝館館長） ～休憩（10 分）～ **■パネルディスカッション（約 70 分）** テーマセッションでの多角的な視点を受け、登壇者にフランシス・モリス氏も加え、日本特有の気候風土も含めて日本のミュージアムが対峙すべき課題、サステナブルな未来について議論します。 登 壇 者：フランシス・モリス 茅野 恒秀 半田 昌之 秋山 純子 相澤 邦彦 塩見 有子 ロジャー・マクドナルド モデレーター：片岡 真実（国立アートリサーチセンター長）
参加定員	150 名（要事前申込、先着順）
参加費	無料
申込方法	https://ncar.artmuseums.go.jp/events/other/post2026-2971.html　をご確認ください。 （お申込に当たっては外部サイトへ遷移します。） ※申込締切：2 月 13 日（金）23:59 まで　（定員に達し次第受付終了）
主催	独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター（NCAR）
共催	公益財団法人日本博物館協会、ICOM 日本委員会、独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
その他	情報保障：日本手話通訳、日本語文字通訳（UD トーク）有り 使用言語：日本語・英語同時通訳有り ライブ配信：無し

PRESS RELEASE

2026 年 1 月 16 日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

基調講演

Photo: Hyunjun Lee

フランシス・モリス　Frances Morris, CBE（大英帝国勲章）
キュレーター、美術史家、Gallery Climate Coalition（ギャラリー気候連合）理事長

2016 年から 2023 年までテート・モダン（英国）の館長を務め、ルイーズ・ブルジョワ、草間彌生、アグネス・マーティンなどの高い評価を得た回顧展を含む多数の展覧会や出版物を手がけた。2006 年から 2016 年にはテートの国際美術コレクション部門のディレクターとして、女性アーティストの積極的な紹介や、収蔵・展示・企画を通じて、写真、映像、パフォーマンスなどのジャンルを初めて扱うなど、収集方針の拡充と多様化を戦略的に推進し、同館の国際的なコレクションの改革を牽引した。
また、2019 年 7 月にテートが発表した気候・生態系非常事態宣言に深く関与して以来、文化とサステナビリティをめぐる議論における重要な発信者として活動している。
近年のキュレーションに、「Phyllida Barlow: unscripted」（2024 年ハウザー＆ワース・サマセット（英国））、「Agnes Martin: Moments of Perfection」（2024 年ソルオル美術館（韓国））などがある。

登 壇 者（五十音順）

相澤 邦彦
ヤマト運輸株式会社
グローバルロジスティクス部
美術品ロジスティクス課
スペシャルアドヴァイザー/
コンサヴァター

秋山 純子
東京文化財研究所
保存科学研究センター
保存環境研究室長

塩見 有子
NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ
［AIT/エイト］
ディレクター
Photo: Yukiko Koshima

茅野 恒秀
法政大学社会学部教授、
信州大学特任教授

登 壇 者（五十音順）

半田 昌之
日本博物館協会専務理事、
ICOM 日本委員会事務局長

ロジャー・マクドナルド
NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ［AIT/エイト］共同設立者/グリーンチームリーダー、
フェンバーガーハウス館長、
多津衛民藝館館長
Photo: Sayaka Takizawa

モデレーター

片岡真実
国立アートリサーチセンター長
Photo: Shintsubo Kenshu

＜報道関係のお問合せ先＞
国立アートリサーチセンター広報事務局　（株式会社プラップジャパン内　担当：名取・渡辺・星川）
TEL：03-4570-2273（平日 10:00～18:00）　FAX：03-4580-9127　E-mail：ncar@prap.co.jp